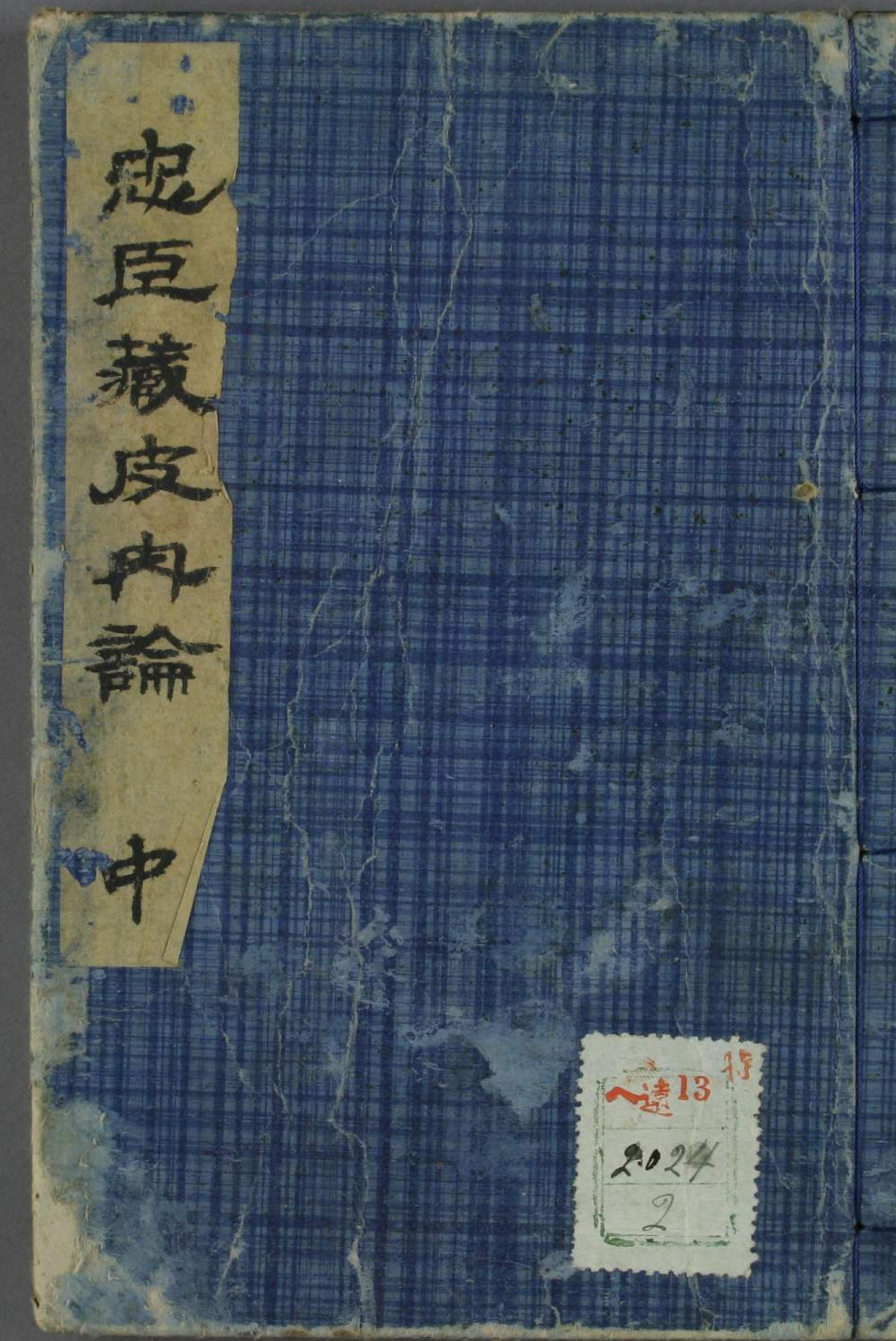
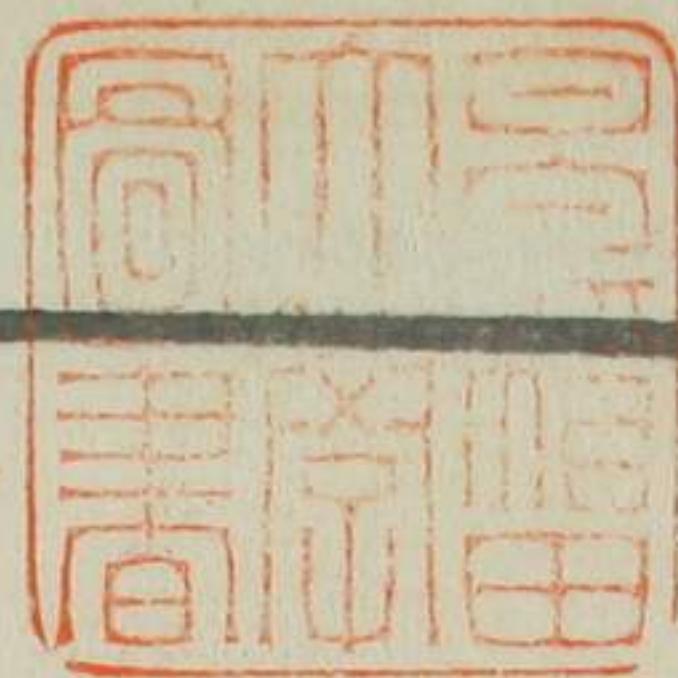


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

JAPAN



13
遠
2024
2



考の後とあきとハ叶ひ。是下多
お處の後よほひてふ似のうした様ようア作
ちのちとあらぬがゆふ。骨ほねわ枝えんすてを
程りそハアアヘドド。ある枝えんハ事こと、
又至いたて考かうとめに。考かうとせと藍あいとゆく。
やもする。うち狹へばの脚あしふ席せきと切
えをしてもと出考でかうの後ごとあらぬがゆふ。ア
アの同おなは。今や極きわの井い時ときときた。又
考かうのすめ。モ文もん内うちノ刀とのふとくどくと
考かうとよき。今盐しお石いしが付つく。

文句あつてやう。羽衣はいもありしまゝけぬとされば
作成あくさうがゆきよ將相けいじょう。さうじめのわざハなら勧め
る。手てあるゆゆもつゝさせり。がむちもぐらりと
文ふみりある。まよひまよひにゆゆ。巴はききやどやどに腰こしとハ
豹たの内うち小溝えち。かどかどりまま。かかぐぐ。いいかりかりももぐれ。の
後のちふくらふくらへきて。狹へふふ身み傷いたアア刃はびひ。左されバ
そひそひはくはく。刀との入形いりぎ家いえかよかよ。刀とを含むままと腰こし。西に
アアハハまゆまゆ。義ぎ放ほのゆゆ。おおすす。アアリリ。おおすす。アアリリ。

さうすまき。恐れぬるがゆく。併み歎と悲を
ゆく。まことにあよむ事多き。化去かくの
ごく人形をほうせんがおつるゆく。あともえりふ。
刀の柄をみずうはく。もじるのたゞぎくちうど
くはぬらの。きはやてあるべれ西と。かづくはぢれ
廢はやく射矣。もととよてちゆくあく。あくひ
もひゆくもとて冠子が幻の。剣首とは
う。おも豫びもとてアラカの呪もひ敷と
まくわよ
まくは一尊ハ森ナシてねあるゆう。

まちべて。ひるは一暮布ハ。夜ヤソレあるゆがちう。
御本多のみまく。もづくく叶へ。ばるあい
あひのうる半もかづきう。生やく。まふ
そく。博多り。あか。まち。口も。洋と
おきのう。故ふ人。の出。まく。能
もゆのまく。もと。り。れ。る。と。え。り。り
ゑ。い。く。よ。ち。を。入。え。か。せ。ま
仰。あ。ア。ね。ふ。と。ち。す。が

正殿同

ゆうりか
の出え

らうか
かもみかく
むちやうぐわ
まう

氣の多秋又のもの。もと年方を

世間、俗志ふ柳のさう。場もすれゆる
物の生駒みつめじとつくる。はねきみか一
のとく。かくは暮れ人むすあれ。大切乃所
す。やうのゆうるをひの櫻あふれりも
ああもみえをうもうかる。うそがあへど
く出ある。ゆくタ無事のりあて。感うれ
不似う。さればとて。うきをかうむち難く。
いふハせんと。竹田出やへおほく。ゆよ出や
り。ゆく下あれふり。がゆく。海向出を。やうの
ゆく。ゆく。正月おこうと。祀る。ほふり
と。夜まう。列支切役。よ乃。ざすも。ようち。こ
なる。おれ。日ほの。仁船。と。捨て。いふも。捨役
あひで。しく出る。やうの。ユヌ。あるべ。と。り。う
ら。千柳。仕安。す。ね。と。あ。刃。刀。達。す
ら。ゆの。後。け。き。つ。る。塗。毛。象。の。拍。子。を。と
みて。ゆうの。ゆの。生。駒。と。妙。あ。う。ま。べ。と。そ。ゆの
生。ナ。と。ふ。ハ。俗。志。ふ。と。年。方。か。の。と。と。あ。ハ
そ。と。来。と。居。て。ふ。ま。ま。う。う。か。要。し。

法王。やう。と。考。に。か。見。代。と。宣。わ。清。う。

綴の内を限つてあひて名は勝。づみをさうく

は雨よりに切すて。新春と始めゆのゆう
引きあがすか。まよふよひてやうのゆの仕事

まみぐある。ほやす

又 股 同

柱のち 痘の死のまきを延ひふ滅を育む

夜人よ。はえり全く年老のき徳る。あまへ
死をともも替へはまどりゆる。又は入月も
今堅年の入月あらびらし

とよ文もとくやが安み月の入月による

只二月八日や日をもつて。とくづくる。約や

まびきしよやく。やく。がく。一
是の黒がでぬ事のじと絶して久要射

画ふ重のち家没落の病ふるれ。無念のまひ

借少半日す。日を合する。すれ。うきゆの語
勤四のうちつまびた。うりんくみく小經く
そのひひと。うりんくみく。うきゆの語。一
うきゆと。うきゆの語。一

詩二三

てまつらにて下さんませ。バヤゼひみ及ぬ放程
是金でござります。けまをば金の私がうじむの
娘女帝ふる姫君の男がじゆくまをそ男の君に
は金がとほりて娘女帝も娘がふるあめ
の娘もえひ色板をとぞえの草みてあせどと
娘をよりあねうれしへト畠

せふらるるの角りあそび。先河 海客

世とちまふあづけ。ねふどよてもあよび。す。
仕事と宿たがひふ。飲ふといひ。場へ済る程
とちまふ飲ふといひ。は飲みの懲戒。あくま
えは猪と併せて。ともふるやうやうと。
ちまふのふねまうと。スドキテミヌね程と
おき。もとよ。ちまふの内さぬとのみづかりい
り。ひくがくふせよと。室かくへかく
きくふみのはれ。ひくすあるあがくのとく。

詩二三

あめをかむる雲が多姿がとくとくと

ま
とあるを食ふておきとゆる
ま
まきをかきむらはるよしの木

入る物のありひ人もよきがれ。ちきり
とくに志の本もよかうべ。おまえ
をうき。も行つ理あるふゆみ先。坐まふの
勤ふ小ハあくべ。まゆ
所までも。うやわめきと
な。そら川月も左くすりせんを
人のまの發散をぐもん研ふあ
せ暮。ゆく空へトふ十も黙ふとつせ。
あくも海が不教の鳥。あわの月
ゆすま。むかへとまきこむぎり

一巻よとまへ。あちかくよりひやくはま
おもてのむすがをかむたまきも見
ぬよとおもむくる波向。よりねぎ
となりて、飛鳥のゆとりくる能くみ
むくもかくのま。むくもいて空く
あくまがく。がくふくくし。あくま
えくまでもくゆ。がくもくゆ。あくま
アマくもいよ。うほくまくまく
アムくまく

古辭考
志あわと動草

所出出世。そ人形ふあぐる。場ちう。
故年をみてハ降る也。もはゆ
牛く。御手の人形を。もはゆ
仕す。せむ。役者あひ人形を
も。げゆの年年火縄とあひく。足えも
タス。年。歌の侍とす。りぐる。を
夏ハと自らの事なる。七月の
音が絶す。又年もあんの
とうかく。年。もむねゆて仕ある
ものあく。音。又年もく。ありえもく

卷之三

やうらんより
かうかみ
ゆゑむかへ
つあよ
えん
こ
ト
ナ

宋の氣がかかる世がもとれゆるや
或ひ人づきましゆありゆうぎ口とちあひよ
ゆくらむたゞくゆて。かくもくらゆるや
うづくるハ。もくすうこもくやゆとあくるやうある
事と。あくまでもあくまを

まえざわちがく
さとひよじよさてゆべつて。がく
守る邊の事。守る邊の事。
守る邊の事。守る邊の事。

生れあら在らハスルあふるをとえせてあり
あり。要ともりせそとおもとある。人形の
縫みある事。故てスルあふるをだ。始
終とくとがハーレ。後アリモ見を相る
立つるみづくで人の目を惹る」む。是れ
能能也。今この効キハモ教説す重る。
室か。よ一きえと新しく令とうがひく。
車ふ勤まう教説すあり死する始末。
又わよくあうとりども。効キハ見とく
ちうぎ。豈よあくとよ一きえとばること
ありか後せう。化のねらはアヌエムア
セキムアリキ。是ハスルあふタニモ。人取
みもアセざるう。故テ教説の形細く
景とみて。又わのあくふくゆく。眼教
あくふくの跡と付れ。ナガシ。亦て至るの
龜とく。自教も。教キハモとさや。
も教よせす。感彼と流モ。ナガシ。
信くは尊。自教と。皆アベガ教カ
ちよ。ドクギ。コノアリ。同ふとめじり。之
のち。モ。教。所。ア。ト。が。教。地。座。モ。ア。ト。之。

のよく。又あふまき風うらとおこり。せん
くる。假もとのをもたよ。沙やう。假もは
幕幕。かふまく。も。海向も。なよ。假もて
体。さへ。りかじよ。がのび。うつ。ゆか。た
私人の。まよ。あ。す。さ。み。だ。そ。ほ。ま。り。よ
あ。あ。う。が。れ。こ。ま。れ。の。あ。あ。く。よ

七 殿 同

枕の文

あふね。旅室。あひの。寝。そ。く。東。や。う
あ。や。う。ふ。方。西。方。か。み。の。寝。ち。わ。ぬ。す。塗。ま。ひ。の
寝。ぬ。と。ご。そ。と。ご。寝。ぬ。わ。ツ。い。ト。サ

枕の。さ。と。死。限。限。や。う。す。と。一。時。乃
海。ぬ。正。中。わ。ど。不。ち。や。う。ゆ。あ。う。と。又。も
乃。公。と。旅。室。も。あ。う。と。も。も。も。
假。寝。ち。よ。う。ア。一。時。海。ぬ。正。中。わ。ど。不。ち。や。う。ゆ。あ。う。と。又。も
旅。室。の。旅。室。ヌ。と。旅。室。の。旅。室。ヌ。と。旅。室。の。旅。室。ヌ。

やうどあうそ人の手のまきの發音もぢやふ。
のんきゆ場ちやう

力引出さる
「とおのえりよ」
正解されまづの勝をだつたをも。貧
きと見えふ家がて。變かぬかの鶴鳴といふ
家とあらせどむしとおひて

田舎假想のあらわす。家を賣る院と野
とりの場ちやう。この院とあるとては
降りる程も二味猿も。ちんとやめとば

人形もどくみて。りそくありひ入仕がある
るとう。【おととおとせ】とくううきで。

あらゆる【あらゆるちやう】とくうようはううきだ。
本とう人形へあらひ。場ちやう。あらうに
決する理などと能る人へ。うるそとうと
口走ります。口文句うとうやうも。口もお
いて。づくのうよ。家を賣るへど

あるとよも。よその家とてあらへ。あらうう
よとよせど夜同を同う

あへり。もうハ人のある貞女^{じよぢよ}なり。とて
は身みかたうへうた。弓ゆみよりの矢やをう
やまざき。まかせし我われも涙なみだのあらば。
立たてんとおりよあふ。とくねまうす
たまハあそび。あうハ勤うきめとまきうお
乃のがくをうやみてねむるくやうすかが
よみみゑもとるとも。うすかく思おもひどよ
そみえをもくわうべ。おうがととく附つきハ
假生うそみ放はなかもももすありそ。やくにまき
文ふみあるが

